

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善をする。また開室時間の延長を検討する。	→「法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善状況(新たに確保できたスペースの広さ)および開室時間の延長の有無」	C	C	B	B	B
2. TAの採用数を現在よりも増やして学生の多様な要求に対応できるようにする。	→「前期課程大学院生からのTA採用数」	D	C	B	B	A
3. 教材作成、試験問題作成用の録音ブースを設置することで学生の外国語運用能力の育成をはかる。	→「録音ブース設置の有無」	D	B	A	A	A
4. 学部単位の会議数および会議所要時間を現在より削減して研究時間を確保する。とくに長時間にわたる教授会は回数の削減とともに2時間以内に終了できるようにする。	→「会議数、会議時間の削減状況」	D	D	D	D	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年夏に教授会決定により1つの書庫を可動式に変更した。2013年10月図書委員会決定により重複図書の除籍作業を2回行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 書庫の可動式変更によりスペースが約3倍に拡張した。2度による除籍作業により各500冊分のスペースを確保することができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 除籍作業は更に定期的に行なっていく。電子データ化された雑誌の導入(電子ジャーナル)と冊子体の雑誌とが重複する可能性があり、この点で、重複する場合は、冊子体の購読を中止する等の措置を検討することが考えられる。開室時間の延長は、職員数および勤務条件との関係を模索しつつ、引き続き目標とすべきものである。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教務委員会が中心となり、TA、LAの採用を実施してきた。TAについては、2009年度以降、順調に採用数が増加している。LAは、2012年度から採用を開始し、当年度は春学期11名、秋学期11名、2013年度は春学期17名、秋学期12名であった。なお、評価指標データにあるように、2013年度は、授業補佐17名を採用した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 目標設定年度からして大幅な進展があり、目標は達成されたといえる。今後は、TA、LAが、さらに学生の多様なニーズに応えられるように、質を向上させ多様な取り組みを展開して行くことが展望される。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か TA、LAを今後も充分確保するとともに、彼らが、授業時間外でも積極的に学生の学習支援に応えられるようにするよう、定期的な学習相談や、学期はじめの履修相談に応じられるよう、組織的に取り組むことである。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 語学教員が中心となり、2011年度までに、教材開発室にスペースを確保し、録音ブースを設置した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2011年度に目標を達成した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 録音ブースの活用状況を把握することである。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 会議数、会議時間の削減については、教授会を中心として、会議時間の削減を推進してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 未だ改善の傾向は見られない。しかし、教授会の平均時間数は、2012年度は約2.7時間であったが、2013年度は約2時間であり、目標達成時点にまで達した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教授会の成果にあるように、他の会議においても、あらかじめ会議時間数を明確にし、これを周知するとともに、コンビーナ等会議主宰者が、この目標を厳守するよう意識的に取り組むことに努める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	12	10	12	11	12	
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	17	17	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	18.0	17.4	16.1	16.9	16.4	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	15.0	18.0	12.4	12.7	13.5	
		講師	時間	—	—	—	—	—	
		助教	時間	—	—	—	—	10.3	